平成 29 年 11 月 24 日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第 14 回（通算第 93 回）定例会　会議録

◆日　時：平成 29 年 11 月 21 日（火）　PM7：05～8：45
◆場　所：田辺市民総合センター　1Ｆ　機能訓練室
◆出席者：　35　名

別紙のとおり

１.「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：45】

19：05～　　開会　　初山先生

19：05～19：10　　研修等案内

19：10～19：20　　わたしのしごとを知ってください
「放課後等デイサービス　くるみ」　　吉田　公章氏

19：20～20：45　　講義と演習
「高齢者の結核について」
講師：田辺保健所　総務健康安全課
橋本　照代　氏
奥田　祐亮　氏

※19：20～19：50：講義
19：50～20：05：質疑応答
20：05～20：45：グループワーク・発表

20：45　　閉　会

【高齢者の結核について】

・終戦直後まで結核は国民病。徐々に減ってはきているが、平成 27 年でも人口 10 万人当たりの結核罹患率は 14.4　これをオリンピックの 2020 年までに 10 以下にすることを目標にして結核対策を取り組んでいる
・近年の発生動向
　患者の高齢化　→結核患者のうち 70 歳以上の割合、和歌山県全体で 74%、西牟婁圏域は 90%
　若年層に小さなピーク　→20 歳代の人に免疫がない
・全国の罹患率地図
　西高東低で西日本のほうが罹患率が高い。大都市も罹患率高い。
　全国：13.9　和歌山：13.7　西牟婁：15.8

・結核とは
　肺結核が約 80%
　飛沫感染（空気感染）。咳のしぶきなどでうつる。空気中に浮かんでいる菌で感染。食器や床など落ちたしぶきからは感染しない。
・感染と発病　⇒感染しても発病しにくい病気
　結核菌に感染しても約 8～9 割は一生発病しない。
　1～2 割が感染後発病。
　　①あまり時間をおかずに発病　→感染後 2～3 年で発病。乳幼児や若年に多い
　　②免疫力の低下に伴い発病　　→免疫力がないときに発病。高齢者に多い。
　発病して症状が進行して、数か月して痰に菌が混じるようになり、他の人に感染させる
・要注意が必要なひとは
　結核にかかったことがない
　免疫を抑制する薬を飲んでいる
　免疫力が低下するような疾病（糖尿病・胃切除・人工透析など）に罹患
　不規則な生活習慣
　喫煙は発病リスクを 1.5～3 倍に高める
・結核の検査・診断
　感染の有無をみる　→血液検査（こちらがメイン）・ツベルクリン反応
　発病の有無をみる　→胸部Ｘ線・ＣＴ検査
　感染危険性と確定診断　→喀痰塗抹・培養検査
・結核の治療
　排菌していれば入院治療（県内では和歌山病院で約 2 か月）
　治療薬４剤で６か月間の服薬治療
　　※医師からやめていいと言われるまできちんと服用すること　→耐性菌を出現させない
・結核を疑う症状
　咳が２週間以上続く
　痰・血痰がでる
　微熱が続く
　からだがだるい
・高齢者の結核の特徴
　自覚症状に呼吸器症状を有する割合が少なく、受診や診断の遅れにつながるリスクが大きい

＜質問＞
Ｑ：関西が結核の罹患率が高い理由は？
Ａ：結核は古くから（平安時代からとも言われている）ある病気。人口密集地に多い病気なので、昔、都のあった関係で関西地方に人口が密集していたためではないかという説がある
Ｑ：高齢者は自覚症状が少ないのに、西牟婁では約 90%の割合で発見。どういう状態で発見されることが多いのか？
Ａ：他の病気が原因で医療機関にかかって、偶発的に発見されている。だから発見されたときには他の人に感染していることもあるので広がりを見せていることが多い。そのため普段から気になる症状のチェックや、結核では？ということを意識してほしい。
Ｑ：結核治療後に認定申請をして、認定調査に行くことがある。行っても大丈夫か？
Ａ：排菌しているかどうかで面接が可能かどうかはちがうが、一般的には痰の検査で値が低くなると退院の許可がでる。つまり退院許可が出る時期になると他の人に感染させることはない。ただ、免疫力が落ちている人は注意が必要。和歌山病院の退院の基準は３回連続して塗抹検査が陰性になってから。
Ｑ：20 歳代は一番体力もある時期だが、その時にピークがあるのはなぜ？
Ａ：かつて国民病だったこともあり、ある程度の年齢の人は結核菌に触れて生活している。最近の若い人はそういう風土で生活していないからではないか。

＜グループワーク＞

テーマ　事例をもとにどのような対応をすればいいか考えてみてください

訪問介護を利用していたＡ氏が約１か月前から微熱を繰り返し、胸痛を訴えていました。病院で診察してもらったところ、「結核の疑い」と言われたと家族から、電話があった

①連絡をうけたあなたは情報伝達をどのようにするか

②感染拡大防止のために、事業所がどのような情報を把握しておく必要があるか

→各グループで意見交換

回答は別紙のとおり

⇒結核は感染してすぐ発病するものではない。

結核に罹患した人を悪者のように扱わない。対応に配慮が必要であるため、保健所になんでも相談してほしいと。

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：平成 29 年 12 月 19 日（火）　午後７時～

場所：田辺市民総センター　1F　機能訓練室

内容：未定

講師：はぎの鍼灸院　　院長　　萩野　利赴先生